

文化財選定保存技術の選定及び保持者の認定について

このことについて、下記のとおり報告する。

1 要旨

令和3年7月16日に文化庁で開催された文化審議会文化財分科会の審議・
議決を経て、美術工芸品保存箱紐（真田紐）制作が選定保存技術として選定され、
その技を保持している区内在住の市村藤一氏が保持者として認定された。

2 選定保存技術の概要

美術工芸品保存箱には、箱の蓋と身を安定的に一体化させるために箱紐を付すことが伝統的に行われてきた。二重箱など大型の箱や茶道具の箱紐には、強靱性、非伸縮性、耐久性に優れ、装飾性をもった真田紐が選ばれた。

真田紐は負荷が大きくかかる環境で用いられることから、長時間の使用には耐えず修理に際し新調される例が多く、美術工芸品の保存には欠かすことはできない。しかし、手作業を中心に真田紐を製作する技術者は極めて希少な存在となっており、良質な美術工芸品保存箱紐（真田紐）製作技術について、保存の措置を講ずる必要があるものとして選定保存技術に選定された。

3 保持者の概要

氏 名 市村 藤一
生年月日 昭和3年9月7日（満92歳）
住 所 板橋区大和町

市村氏は、昭和3年に東京にて真田紐製作を営む家に生まれた。実業学校卒業後、叔母、姉に師事して真田紐製作技術を習得し、爾来70余年、真田紐製作に専念してきた。

箱紐の材料は経糸に木綿又は絹、緯糸に木綿を用い、明治から大正年間に両親

が導入した希少な木製自動織機にて製織する。適度な硬さの真田紐を製作するために、糸の品質に応じ経糸の張力を適切に調整するなど、各工程において熟練の技術を有している。

近年の装潢修理に際し、新調される保存箱紐は市村氏製作のものが多く用いられるように美術工芸品保存修理に欠かせない材料を供給している。現在も子息とともに第一線で仕事を行い、技術・技能の継承を図っている。市村氏は真田紐の製作技術を正しく体得し、かつ、これに精通していることから保持者として認定された。

(参考：選定保存技術の選定及び保持者等の認定制度について)

国(文化庁)が文化財保存のために欠くことのできない伝統的な技術又は技能で、保存の措置を講ずる必要があるものを選定保存技術として選定し、その技を保持している個人又は技の保存事業を行う団体を保持者又は保存団体として認定するもの。